

## Ⅵ．地 域 集 団

西陣はいうまでもなく織物の町であり、伝統産業地域である。そのことから、町は古くからのしきたりや慣行が残っており、伝統的な生活様式や生活意識によって支えられていると考えられてきた。だから、西陣はまちというより、むしろ「ムラ」的であるといわれてきたりもしている。ここでは、そのように考えられてきた西陣地区の人たちの、地域集団へのかかわりについて、町内会・自治会を中心にしながら調査結果をみていきたい。

### (1) 地域の団体の特徴

問13で、地域の組織や団体と考えられる21の項目をあげて、加入と役員経験をたずねた。

表Ⅵ-1 組織や団体の加入率

組 織 や 団 体	加入しているもの	そのうち役員をしたり、経験のあるもの
(1)町内会・自治会	77.9%	59.7%
(2)商 店 会	3.4	40.0
(3)婦 人 会	28.1	23.1
(4)P T A・育友会	31.4	61.2
(5)青年団・青年会	3.7	59.3
(6)老 人 ク ラ ブ	16.8	13.7
(7)同業者会(組合)	26.9	41.7
(8)防犯協会・消防団	12.2	37.8
(9)氏 子 会	4.5	9.1
(10) 講	2.6	42.1
(11)同 窓 会	25.7	33.2
(12)県 人 会	2.8	38.1
(13)趣 味・同好会	15.3	29.2
(14)スポーツ 団 体	12.2	36.7
(15)宗 教 団 体	10.4	41.7
(16)政党・政治団体	4.7	25.7
(17)労働組合職場の同好会	8.7	32.8
(18)(2),(7)以外の 商工・経済団体	7.8	25.9
(19)ライオンズ・ロータリー	2.8	28.6
(20)医療・福祉団体	6.5	27.1
(21)青少年育成団体	4.5	75.8
(22)そ の 他	2.4	33.3

注 無回答・非該当を含む。

「町内会・自治会」は77.9%の人が加入していると回答している(表Ⅵ-1)。「町内会・自治会」は、その加入は任意をたてまえとしながら、地域の最も基礎的な団体として、ほとんど全員加盟に近い形態をとっている。今日、全国的にみても、8割近い加入率が指摘されている。同時期に調査された、吹田市の事例と比較してみても、ほぼ似かよった加入率になっている(表Ⅵ-2)。「町内会・自治会」ほど高くないが、相対的に高い加入率を示しているものは、「P T A・育友会」が31.4%、「婦人会」が28.1%と続いている。次に、「同業者会(組合)」が26.9%となっており、西陣の特徴を表わしている。さらに、「同窓会」も25.7%と高い加入率を示している。加入率としては相対的に低い、氏子会や講なども加入者がみられる。

繊維不況は西陣一円をおおい、西陣の機業は外延的に拡大し、その点で「西陣地域」は広がっている。機業とその関連業種を基礎として発展してきた西陣の地域は、まさに経済組織が、社会生活と一体化したところで成立っていたであろう。ところが「空洞化」の波は、経済を軸とした「実体的、西陣を「機能的、な西陣へと変化させているのであろうか。そのような仮説が成立つとするなら、西陣の「空洞化」は地域での多様な機能集団を生みだしていくことになるだろう。

### (2) 町内会・自治会

「町内会・自治会」への参加を、居住期間、

表Ⅵ-2 吹田市の団体加入率

	加入率		加入率
町 内 会	75.8%	県 人 会	19.9%
老 人 会	15.8	宗 教 団 体	15.5
P T A	34.4	政 治 団 体	13.4
サークル	21.9	商 店 会	4.3

注 「吹田市民意識調査報告書」昭和57年10月23～25日、吹田市、立命館大学地域社会研究会

住居形態、世帯の年収、世帯主の年齢、世帯主の職業、家族形態の6つの社会的属性によって、クロス集計分析を行ない、その傾向をみてみよう。

まず加入率は、居住期間、世帯の収入、世帯主の年齢、家族形態で同じような傾向を示しており、居住年数が浅く、所得が低く、年齢も若く、単独世帯で加入率が低いほか、あとはほぼ平均して高くなっている。

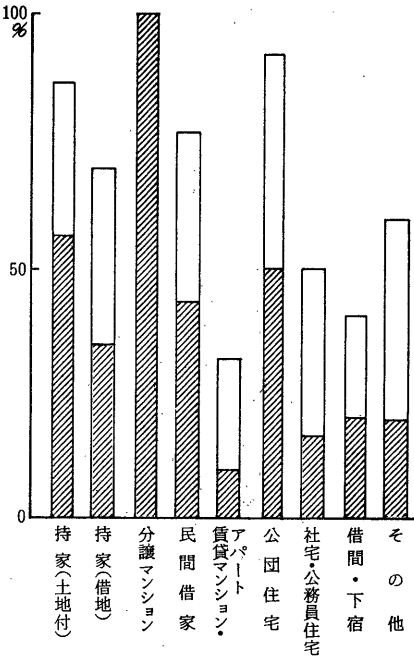
住居形態では、「分譲 マンション」は、ケース数が少ないので、明確には言えないが、「公団住宅」、「持家」、「借家」層に加入率が高い。世帯主の職業別には、ほとんどその傾向は読みとることは出来ない。

加入者のなかで、さらに役員経験者の率を表わしたものがグラフの斜線部分である。加入率の傾向とほぼ比例した様子が、居住期間、世帯主の年齢、家族形態でうかがえるし、世帯の年収についても、ほぼ同様であるが、収入の最も高い「1,500万以上」層が高くなっている。(図VI-1～6)。

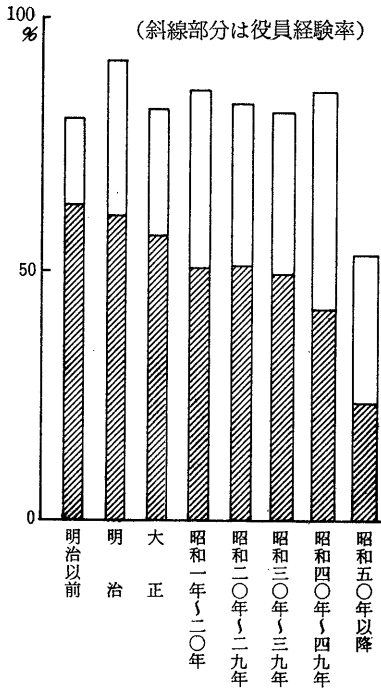
さて次に、「町内会・自治会」の参加の度合いについて、同様の指標でみたものが、図VI-

7から図VI-13である。「町内会・自治会」の活動に熱心な層は、居住期間でみると古い層ほどその傾向がうかがえる。住居形態別では、「持家(土地付き)」層が高い。加入率では高かった「公団住宅」が「会費をはらうだけ」層が多く、

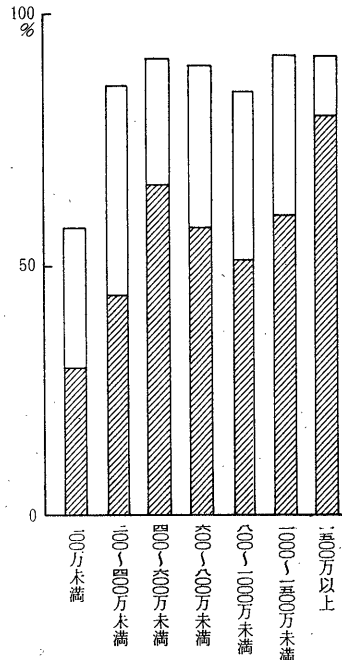
図VI-2 住居形態別加入率



図VI-1 居住期間別加入率

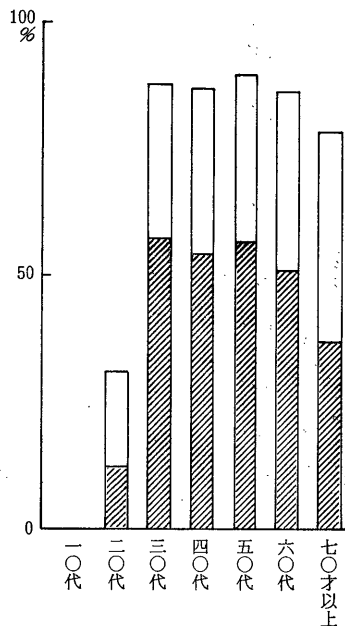


図VI-3 世帯の年間収入別加入率

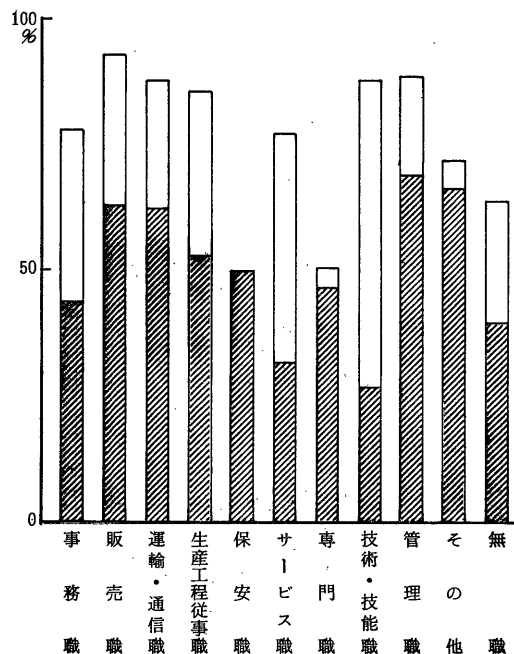


なっているのも特徴である。世帯の年収では、相対的に収入が高い層が熱心であることがうかがえるが、「400万～600万未満」と「1,500万以上」層にピークがあり、「800万～1,000万未満」層で多少低くなっている。世帯主の年齢では、「30代」～「40代」層にピークがみられる。世

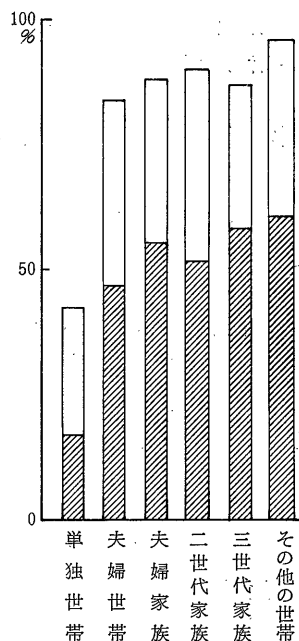
図VI-4 世帯主の年齢別加入率



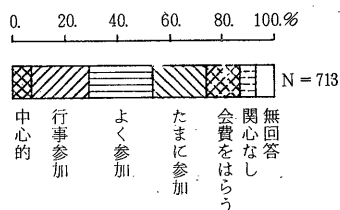
図VI-5 世帯主の職業別加入率



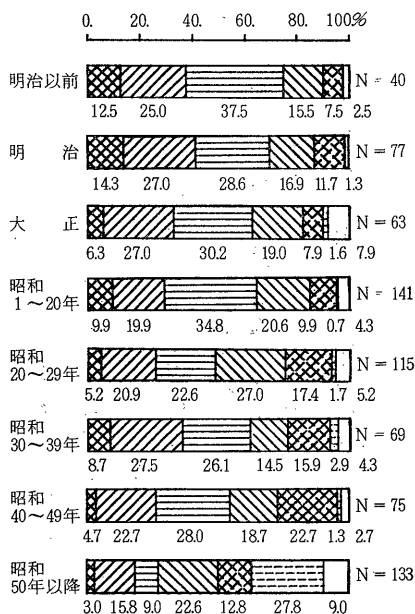
図VI-6 家族形態別加入率



図VI-7 町内会・自治会への参加の度合い

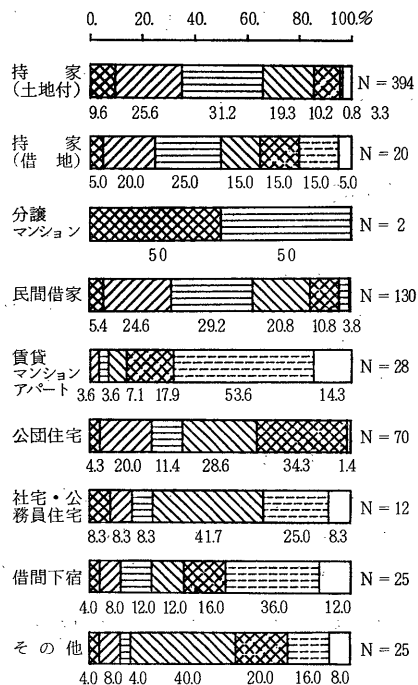


図VI-8 居住年数別の参加の度合い

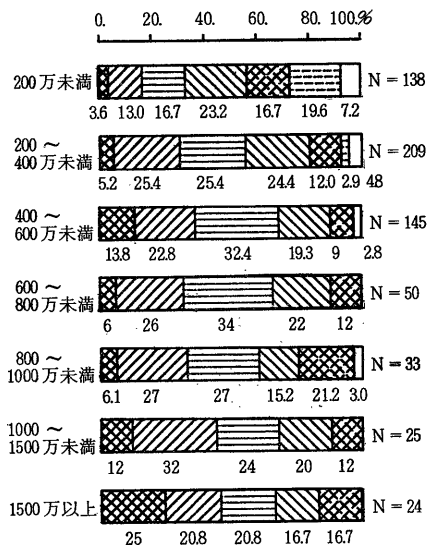


帯主の職業では、「生産工程従事者」と「管理職層」に同様なこの地区の平均的傾向がうかがえるが、西陣としての職業に近いのかもしれない。家族形態でみると、「三世代家族」、「夫婦家族」、「夫婦世帯」で、比較的参加の度合いが高くなっている。

図VI-9 住居形態別の参加の度合い

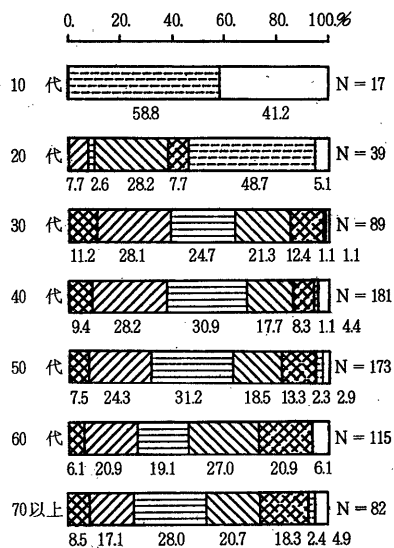


図VI-10 世帯の年収別の参加の度合い

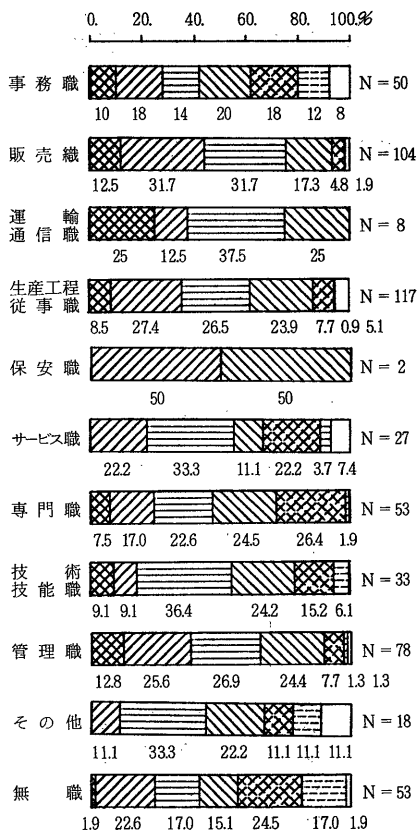


「町内会・自治会」への加入率と6つの社会的属性の関連性を、6つの社会的属性それぞれの間で、比較してまとめておこう。それぞれの

図VI-11 世帯主の年齢別の参加の度合い



図VI-12 世帯主の職業別の参加の度合い



属性について、加入率の最高と最低の差の幅の大小は、その属性の加入率に対する相関性の大小を示すことになる。

6つの社会的属性のなかで、世帯の年収のちがいによる差が最も小さく、居住期間、家族形態と続いている。これら三つの属性で、世帯の年収では「200万未満」層、居住年数では「昭和50年以降」層、家族形態では「単独世帯」層をそれぞれ除くと、その差はほとんど縮まり、加

入率が高いところで安定していることがうかがえる。

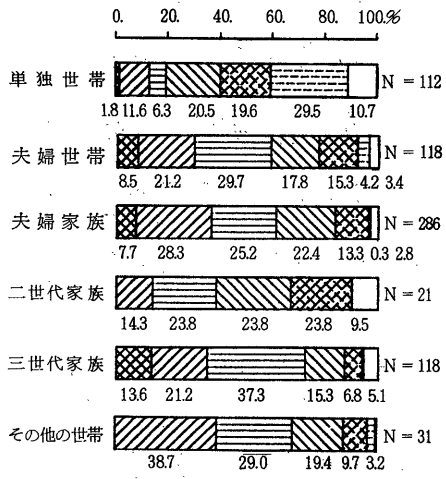
町内会の役員経験率は比較的高いと思われる。しかし、町内会長へのヒアリング予備調査では、単純に順番に持ち回りにしている町内もあれば、選挙の形式を取りながら、有力者がほとんど選任されている町内も見受けられる。したがって、さらに町内会単位にまで下りた集計分析とともに、ヒアリング調査とあわせた検討が残されている。

(3) その他の地域団体

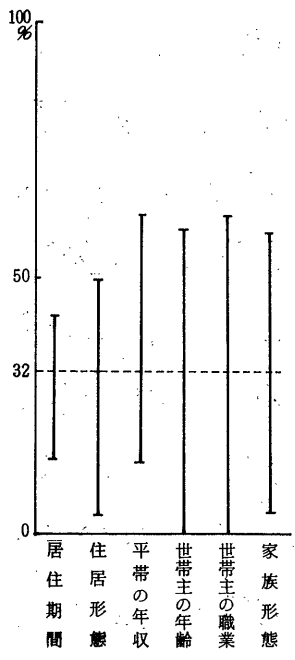
今回の調査では「町内会・自治会」を含めて21の組織・団体をあげて、それへの加入を問っているが、「町内会・自治会」以外のものについては、加入状況はどのようになっているのか、比較的高加入率の高い、したがってケース数が相対的に多い、上位6つのものと、加入率は低いが重要と思われる「政党・政治団体」について、「町内会・自治会」でみてきたように、6つの社会的属性との関連をみてみた。

「PTA・育友会」は、世帯主の職業(62.5～0%)、世帯主の年齢(59.7～0%)、家族形態(59.3～4.5%)など、加入率の差が大きい(図

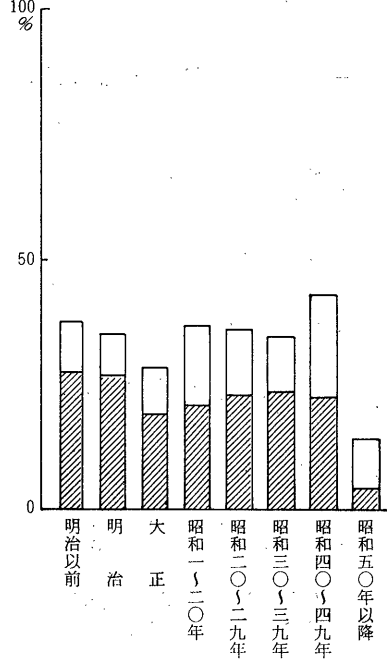
図VI-13 家族形態別の参加の度合い



図VI-14 PTA・育友会の加入率の差



図VI-15 PTA・育友会についての居住期間別加入率

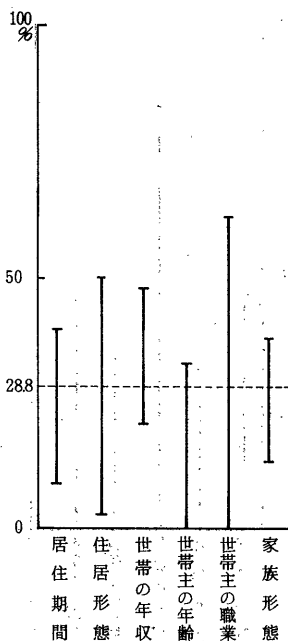


VI-14)。

「P.T.A」への加入は、子供の小学校在学を契機としており、家族周期の位置によるだろう。ここでは世帯主の年齢が「40代」層が高いのは当然であろう。世帯主の職業でケース数の少ない「保安職」の加入率が0%で、そのために差を広げているが、それを除くと、62.5~20%と差が縮まり、職業のちがいによる関連性が多少うすくなる。そこで、居住期間別加入率によって、その内容をもう少しみると、やはり、「昭和40~49年」層の加入率が高いが、役員経験では、古くから住んでいる「明治」、「明治以前」層に逆に高く、興味ある結果がうかがえる(図VI-15)。

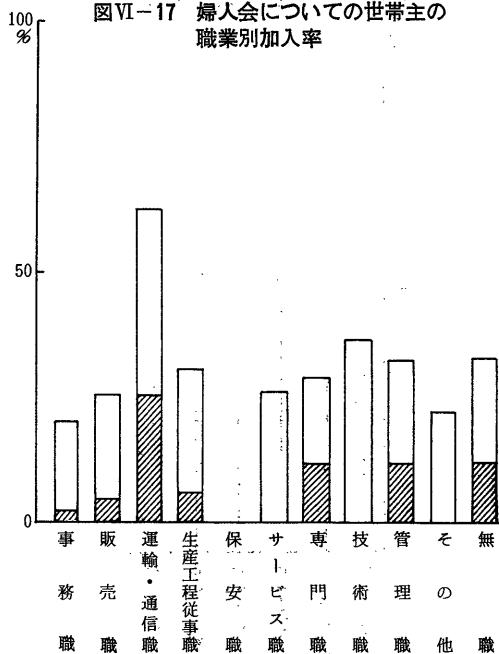
「婦人会」は「P.T.A」と同様、世帯主の職業で差が62.5~0%と最も大きい(図VI-16)。その内容をさらに詳しくみたものが図VI-17である。「運輸・通信職」層に加入及び役員経験も多く、「保安職」層に加入がみられない。もっとも「保安職」はケース数が少ないので、考慮する必要がある。けれども、「技術職」、「管理職」層さらには「生産工程従事職」層に加入がわずかに多い。役員経験は「専門職」、「管理職」層に多い(図VI-17)。

図VI-16 婦人会の加入率の差

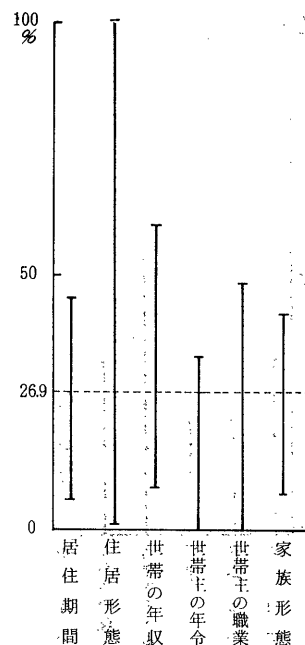


「同業組合」は、住居形態で差(100~1.4%)が最も大きい、世帯主の職業、世帯の年収、居住期間など全般に、社会的属性のちがいによる差が大きい(図VI-18)。西陣の職業に最も結びついた団体であり、製織・販売などで収入が

図VI-17 婦人会についての世帯主の職業別加入率



図VI-18 同業組合の加入率の差

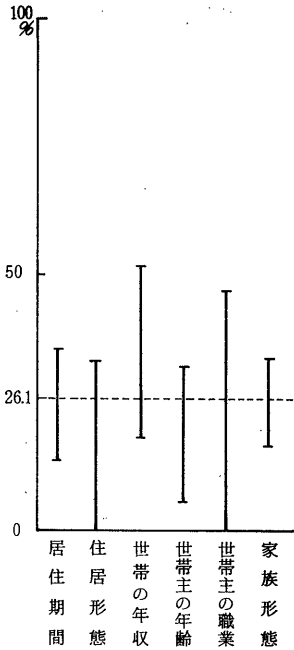


高く、明治～戦前の地付き層が加入率に関連していると考えられる。

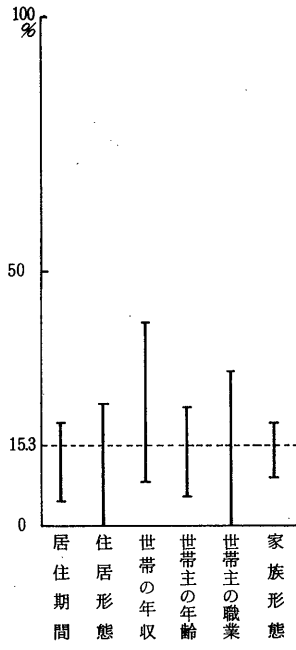
「同窓会」も「同業組合」と単純集計結果においてはほぼ同じ加入率を示しているが、社会的属性の各項目間の関係はまったく異った傾向

を示しており、全項目を通して相対的に差は小さい（図Ⅵ-19）。そのなかで、わずかではあるが大きいのは、世帯主の職業である。「管理職」層が47.4%から「運輸・通信」、「保安職」層が0%となっている。

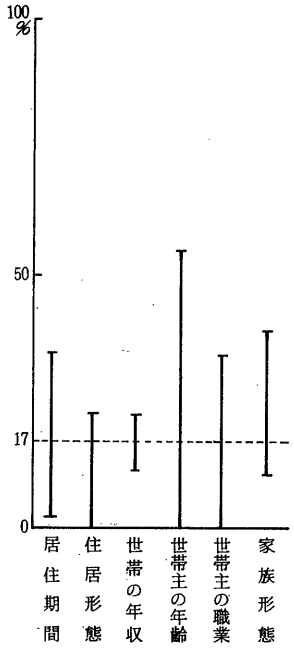
図Ⅵ-19 同窓会の加入率の差



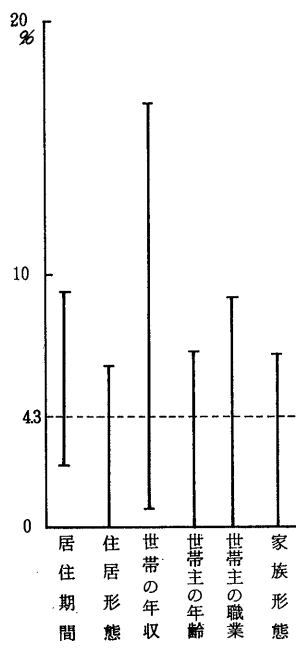
図Ⅵ-21 趣味・同好会の加入率の差



図Ⅵ-20 老人会の加入率の差



図Ⅵ-22 政党・政治団体の加入率の差



「老人会」は、世帯主の年齢のちがいによる差が大きく、逆に年収のちがいによる差は非常に小さい（図Ⅶ-20）。「老人会」の性格からすると当然の結果といえるだろう。

「趣味・同好会」は、相対的にみて差は低くなっているが、年収のちがいによる差が「1,000～1,500万円」層の40%から「200万円未満」層の8.7%で、多少大きい（図Ⅶ-21）。また世帯主の職業のちがいによる差が「専門職」層の30.1%から「運輸・通信」、「保安職」層の0%で、これも収入に続いて大きい。やはり、生活のゆとりといったような要因が考えられるだろ

う。

「政党・政治団体」への加入は、単純集計で見ると4.7%で低いですが、地域リーダーとして、地域の要求や課題の解決に重要な役割をもっていると考えられる。「世帯の年収」で最も加入の差が大きく、「1,500万円以上」層の16.7%から「200万円以下」層の0.7%を示している（図Ⅶ-22）。「400～600万円」層が6.9%でやや高く、「1,000～1,500万円」層が、やはり16%の加入率を示しており、高所得層と中所得層の異った政治的関心層があることがうかがえる。

（谷口浩司）